

番号	7 - 35	申請者	診療支援部長 石崎 雅俊
<b>【審査申請課題】</b> 進行期デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者における残存機能を用いたコミュニケーション手段の長期経過に関する研究			
<b>【審査課題の概要】</b> デュシェンヌ型筋ジストロフィー (Duchenne muscular dystrophy : DMD) は進行性のX連鎖性遺伝性疾患である。病状の進行に伴い、筋力低下は近位筋から始まり次第に四肢の遠位筋に及ぶ。また進行期においては呼吸筋の筋力低下により多くの患者で人工呼吸管理が必要となるが、手指のわずかな動きや、顔面筋、眼球運動、舌筋などの一部の機能が残存することが知られている。これらの残存機能を活用しスイッチ操作や視線入力装置、口腔・顔面操作型デバイスなどの各種支援機器を導入することで、他者とのコミュニケーションを継続することが可能となる。これまで進行期DMD患者における運動機能や呼吸管理に関する報告は数多く存在するものの、残存運動機能によるコミュニケーション手段の経過や顔面筋・舌筋に関する報告は少ない。我々は、2012年に進行期DMD患者においてコミュニケーション手段及び顔面筋・舌筋の筋力評価を行った。本研究では、2025年でも同様の評価を行い、コミュニケーション手段と顔面筋・舌筋の経時的推移を調査する。			
審査結果	承認 ( 令和8年2月20日 )		